

士別市立病院再整備の基本的な考え方 概要版

(1) 士別市立病院の現状

- 運営形態** : 士別市の運営する公立病院
- 病床数** : 129床 (士別市で唯一の入院可能な医療機関)
- 診療科目** : 14科目
- 目指す医療** : 地域完結型の「治し支える医療」
- 経営状況** : 医業収支、経常収支の悪化傾向
- 要因 : コロナ禍、高齢化・人口減少、物価高騰など
 - 対応 : 「士別市立病院経営強化プラン」の策定、病棟再編、医師確保、職員の働き方改革への対応など
- 建物の課題**
- 老朽化（築後37年が経過。劣化度調査では「劣化箇所の早期改修の必要性」、「設備に突発的な障害発生のおそれ」の指摘）
 - 建物規模（開院時307床）と運用機能（現在129床）の乖離

病院の将来のあり方について、各会議体で協議

- 士別市立病院のあり方検討特別委員会
- 士別市病院事業再生本部
- 士別市立病院のあり方検討市民委員会

(2) 病院を取り巻く環境について

- 国の政策** : 「地域包括ケアシステム」の実現を目指す
- 医療計画（都道府県ごと）
 - 地域医療構想（二次医療圏ごと）
 - 骨太方針2025（社会保障予算の増額方針）
- 様々な課題** : 病院の経営改善を困難としている様々な課題
- 医師の偏在（都市部に集中し、地方では医師不足）
 - 将来人口の減少予測（2020年→2050年で士別市の総人口は55%減少する予測）
 - 診療報酬制度（全国一律設定、2年ごとに改定）
 - 物価高騰による経営環境の悪化

(3) 士別市立病院の将来のあり方

- 病院の存続** : 今後も士別市を中心に、現在の経営形態で医療提供機能を継続
- 入院機能** ※状況をふまえ、適宜方針の見直しを行う
- 入院機能は継続（現段階では129床を維持する方針）
 - 回復期リハビリテーション機能を強化して、他地域に流出している患者を取り込み、患者数の増加をめざす方針とする
- 外来機能**
- 現在の診療科目の維持
 - 産婦人科、小児科は名寄市立総合病院と機能分化・連携しつつ、診療体制の充実を検討（非常勤の外来、オンライン連携など）
- 救急受入** : 士別市を中心に、二次救急・一次救急の受入を継続
- その他機能** : 将来の感染症発生時に対応可能な体制の整備
- 健全経営** : 収益増加・費用削減の取り組みの検討、適正規模の投資計画

(4) 基本的な考え方（建物・設備の再整備について）

- 再整備手法** : 病院経営の悪化傾向や、建築費の高騰などの影響を受け、いずれの手法についても、実現には士別市一般会計からの繰入負担の増や収支見通しの悪化など、健全経営の実現に向けて課題が残る

| 手法 | 再整備の概要 | 懸念事項 |
|-------|-----------------------------------------------|------------------------------------------|
| 新築移転 | ・総合体育館・中央公園敷地に新病院建物を新築 | ・総合体育館・中央公園の移転が必要 → 士別市一般会計の負担増大 |
| 現地建替え | ・現病院敷地（駐車場エリア）に新病院建物を新築 | ・敷地拡張が必要（病院所有の隣地） ・一部案では現建物の一部先行解体が発生 |
| 大規模改修 | ・現病院建物を改修＋エネルギー供給機能を備えた建物を新築 ・一部機能は新館移設も検討 | ・工事中の診療制限発生の可能性 ・継続利用可能な年数が短い |

- 今後の方策**
- 病院再整備に係るコストをさらに縮減する方策等について、現有建物の現況調査や改修の手法などをふまえて検討
 - 今後の建築費の変動、診療報酬改定の内容や、国による病院経営への支援策、経営改善の効果などを見極めつつ、ライフサイクルコスト等を総合的に勘案して再整備手法を決定